

順位	氏名（議席）	発言の要旨
12	鈴木 幸司（16）	<p>1. 富士市の技術系職員の充足状況等について</p> <p>総務省は2023年4月現在、全市区町村のうち、約39%で建築技師が、約26%で土木技師が不在であるとの公表をしている。</p> <p>例えば土木系の職員の場合、平常時は老朽化したインフラの点検や道路・河川の整備などを行い、災害時には公共施設の復旧工事などで中心的な役割を果たしている。しかし技術職で採用されるには大学での専門課程の履修などが必要で、一般の事務職などと比較して採用の対象者が限られている。そうした状況を打破しようと、富士市では若手の土木系職員を確保するため、土木の専門試験を課さない採用方法を取り入れるなどの工夫を始めていると伺った。</p> <p>そうした人材の確保・育成により技術系職員を増やす一方、ICT化などにより働き方自体を見直したり、外注できるものは民間に任せるなどの工夫も必要でないかと考え、以下質問する。</p> <p>(1) 来年度の技術系職員の採用状況はいかがか。</p> <p>(2) 土木の専門試験を課さない採用方法を導入した人材確保の効果は。</p> <p>(3) 現在、新病院の設計を控えているが、今後の建築技師の充足状況の見通しは。</p> <p>(4) 令和2年11月定例会で、小規模工事の対象金額を県レベルの2000万円も勘案しながら前向きに検討するとの答弁があったが、そうした改善は技術系職員の負担を軽減するためにも、早急に行うべきではないか。</p> <p>(5) 監督・検査の合理化等の推進を、国は建設業働き方改革加速化プログラムによって示したが、その対応状況は。</p>